教育実践研究　第24集（2014）　151－156

［図画工作・美術］

# 表現活動に向かう内発的動機を引き出す導入の工夫
## －鑑賞によって内面を表現する意欲を高める指導－

巻口　礼子*

### 1　研究の目的

平成20年度に示された[1]学習指導要領改訂の趣旨には，「創造することの楽しさを感じるとともに思考・判断し，表現するなどの造形的な創造活動の基礎的な能力を育てる」，「感じ取る力や思考する力を一層豊かに育てる」などの改善の基本方針が示されている。これらは，創造活動に対して子どもが意欲的に取り組もうとする姿勢の上に成り立つこととらえる。しかし，特に技能教科は得手不得手の意識が働き，はじめから授業に対する意欲を失っている子どもがいるのが現状である。さらに巧拙に対する意識が加わり，授業の課題に抵抗を感じる子どもさえいる。

[2]鹿毛雅治（2007）は，著書の中で４つの学習意欲について述べている。その中で，人の学習意欲を支える最も重要な要素は心理学者のホワイトが位置付けた「効力感」であるとしている。これは，分かるようになっていく，できるようになっていく過程で経験するわくわくするような気持ちであるという。この「効力感」が感じられるのは，「内容こだわり型意欲」であると説明されている。学ぶ意欲の源泉が，内面からわき上がるもの，内発的動機付けと呼ばれてきた意欲がこれに該当するとしている。提示された題材に対し，子どもが内面からわき起こるものを感じられれば，意欲的に自分から学習課題に取り組んでいけるようになるはずである。この意欲を題材の導入でもつことができれば，高い興味関心を抱きながら題材を通して意欲的に授業に取り組んでいく子どもの姿が期待できる。

また，当校の前研究[3]「創造的な知性を培う」（2004－2009）では，６年間をかけて授業研究の取組を整理し，〈焦点化〉〈視点の転換〉〈協働〉〈自己化〉という４つの学習活動で構成する「学習過程」を描いた。この研究では，導入において子どもが学習対象と出会ったとき，学習課題を見いだすための教師による〈焦点化〉の働きかけによって，対象の価値と子ども自身の感じ方，ものの見方・考え方が結びつけられ，対象を追究する意欲をもつことができるという知見を得た。その働きかけの一つとして，模範となる作品などと生徒を出会わせることにより驚きや憧れを生じさせ，「自分もできるようになりたい」という目標をもたせることが学びに有効であるとまとめられた。

苦手意識や巧拙にこだわる意識を凌駕する内面からわき起こる意欲がもてれば，どんな子どもでも目的をもって授業に参加することができるようになるはずである。ある表現を見て，「すごい，どうするとこんな表現ができるのか」「こんな表現，私もやってみたい」という感情は誰でも感じるものである。これこそ内発的動機付けになり得る感情である。こんな表現をしてみたい，眺めていると楽しくなるといった感情を子どもに強く抱かせることができれば，それが内面からわき起こる学習意欲となる。

これらのことから，私は授業においていかに子どもに学習意欲をもたせ高めるか，その手だての有効性を検証するという課題に取り組むことにした。

### 2　研究の内容と方法

表現活動に向かう意欲を題材始めから喚起させるため，導入時に内発的思考を促す手だてを設定する。学習課題，あるいは学習対象に大きな価値を見いだしたり，鮮烈に強い印象を与えたりすることで，この意欲を掘り起こす。

#### (1)　研究の内容

子どもの題材に対する抵抗感が強い題材での実践を行う。特に，思春期において写実的表現への意識が高まっている年頃の子どもたちには安易には理解しがたい抽象的な表現の題材と，自分の姿を描くことに大きな抵抗感を感じる子どもが多い自画像の題材で実践し，その過程での子どもの姿を見とる。

＊ 新潟大学教育学部附属長岡中学校

⑵　研究の方法

題材の導入に子どもの興味関心が一気に高められるような鑑賞活動を位置付ける。何が表されているのか，どうしてそのような表現が作り出されているのかということを自分の目でとらえて考えることにより，題材に対するイメージをふくらませ，自分が目指したい表現の方向が見えてくるようにする。また，子どもに自分なりの対象への価値を見いださせるために，自分が何を感じ取ったかや自分自身を考えるなどの内観する場面を設定する。

導入時からその後の表現活動に取り組んでいく中で，子どもの内面にどのような思考が現れていたかを子どもが記述した授業の振り返りや取組の姿勢，表現されたものから検証する。

## 3　研究の概要

⑴　**実践１**〈平成25年度　第２学年　２学級80名で実践〉

**【題材名】**形と色の挑戦－抽象的な表現－　光村図書出版２・３年下

**【題材の目標】**

○目に見えない音楽や言葉，感情などから発想を広げ，偶然できる形や色の効果や材料の特徴を生かし，工夫して表すことができる。

**【意欲を引き出す手だての工夫】**

○漫画のように好奇心をもって見ることができる作品として，ジョアン・ミロの作品を抽象的表現の入口として取り上げる。子どもの自由な発言を誘発し，互いの多様でユニークな解釈を楽しむことから始める。また，人によって見方が違うことの面白さに気付かせる。

○特徴ある抽象的表現を複数用意し，その中から好きな表現を子どもが選べるようにする。複数ある中から比較して選ぶことによって，自分が好む表現の在り方が見えてくるようにする。

○解説文を書く活動を位置付ける。選んだ表現をじっくりと見て，描かれている形や色彩から自分が何を見いだし，感じているのかを言葉にして書くことでとらえさせる。

○書いた解説文をグループ，さらに学級全体で発表させ合う。自分だけの見方にとどまらず，広く多様な解釈ができることの面白さを感じ取らせる。また，具体のものが描かれていないことで解釈の多様性が生まれることを味わわせる。

**【導入の授業展開】**

| 学習内容 | 学習課題と子どもの意識 | 教師の手だて |
|---|---|---|
| 抽象的な表現を見て考える | ・１枚の絵を見て，何が表されているのか考えよう。<br>作品を見て，何が描かれているのか想像力を働かせて自由な発想で楽しく考える。<br>見る人によって様々な見方ができて面白いものであることを感じる。 | ○ジョアン・ミロの「パイプ煙草を吸う男の頭部」を提示し，見方を固定せずに様々にユニークな見方ができるようにする。 |
| 作品を選び，解説文を書く | ・提示された作品の中から気になるものを選び，解説文を付けてみよう。<br>特に表現に惹かれるものを選び，描かれている色彩や形をよく見てみる。<br>何が描かれているか，どうしてその色や形で描かれているのか，どんな場面が描かれているのかなど，見ていてわき起こる疑問に自分なりの見方で根拠を付けて書き出す。<br>書き出したことをつなげて，自分なりの解説文を書く。 | ○５枚の特徴ある抽象絵画を題名を伏せて提示し，比較することで関心をもって選ぶことができるようにする。<br>・カンディンスキー　・ミロ<br>・ポロック　・クレー　・モンドリアン<br>○疑問に思うことを描かれている形や色を根拠に説明させる。<br>↓<br>「形（色）が□□だから△△を表している」 |
| 解説文発表 | ・互いに書いた解説文を発表し合おう。<br>グループで解説文を発表し合う。<br>代表者は解説文を全体で発表する。 | ○美術館の学芸員を想定し，解説者になったつもりで楽しく発表させる。 |

**【導入授業の子どもの様相】**

ジョアン・ミロの作品を提示した時の子どもたちの反応は，「なんだこれ」「これが作品？」という疑問から関心が寄せられ，作品を見る目が一様に好奇心に満ちたものになった。何が描かれているか，という教師の問いかけに，始めは

「分からない」と発言を躊躇する姿があったが，１人，２人と自由に感じたままを発言したことから様々な意見が次々に出てきた。この導入授業を行い，子どもたちが書いた授業の振り返りの内容を，教師が期待する意欲の高まりによって大きく分類し，割合を出したものを次に示す。（〔 〕内は実人数，欠席者等を除く69人中）

①仲間の見方の多様性から抽象画の面白さを感じ取り，自分自身の見方を広げている記述（「抽象的な表現に多様な面白さを感じた」「今までとは違う抽象画表現の見方が広がった」「自他の感じ方が違い多様な見方があって面白い」等）・・・・・68.1％〔47人〕

②仲間の見方の多様性に面白さを感じ取っている記述（「仲間の感じ取り方が面白い」「自分と違う見方をしている人がいた」等）・・・・・27.5％〔19人〕

③抽象的な表現がよく分からない，その他のことを感じ取っている記述・・・・・4.4％〔３人〕

①②の子どもが全体の約９割以上にのぼったことにより，導入段階での抽象的な表現に対する抵抗感は子どもたちにはほぼ感じられずに学習に入れたと分析する。このうち，①の子どもたちの主な記述は下記のようなものである。

・他の人の解説を聞いて，人それぞれとらえ方に個性があり面白かった。言われてみれば「ああ」と思うものが多くあった。見方が広がったと思う。抽象画をもっと深めたい。
・抽象画は，見る人によって感じることがそれぞれ違うので，とても面白いと思った。自分の好きなように考えることができるし，いろいろに広がっていくので，とても面白かった。

また，①の子どものうち，自分でも抽象的な表現活動をしてみたいという表現活動につながる意欲が記された記述はその中の34.8％〔26人〕で，下記のようなものである。

・今日，いろいろな人の作品解説を聞いて，とても面白かったです。題名を見ずに自分の想像をふくらませられることが抽象画のよいところだと思いました。カンディンスキーの作品では，特に音楽を奏でる紙吹雪を表しているなど，本当に色々な見方ができて面白かったです。ポロックの作品のようなものも描いてみたいです。
・今日の授業で，クラスの人の解説文を聞いて，いろいろな見方をすることができました。また，色でイメージがだいぶ変わるということが分かりました。次は，今回の授業を生かして，自分で抽象画を作ってみたいです。

いずれも他者の意見を聞くことで見方・考え方が広がることの面白さを感じ取り，抽象的にすることで可能になる表現と解釈の多様性に気付くことができた記述ととらえる。

**【表現活動に向かう子どもの様相】**

この授業の後，子どもたちに言葉や音楽を聴き，自分が感じたことを具体的事物は描かずに色彩や形で表す課題を提示し，試しの抽象的表現に挑戦させた。その様相を基に子どもを抽出し，その変容を見とることにした。Ａは描画活動を好まない子，Ｂは筋道立て理論的に考えて表現活動に取り組む子，Ｃは表現活動が得意ではない子，Ｄは表現活動に積極的に取り組む子である。抽出生４人の課題に対する感想を以下に示す。

抽出生Ａ：難しいと感じる部分がありました。自分が感じ取ったことを素直に出すのが大変です。でもやっぱり楽しいです。みんなの作品もわくわくしました。
抽出生Ｂ：言葉と音楽のイメージを抽象画に表した。あんまり抽象的な表現は得意じゃないなと思った。でも，好きなように描いていくのは楽しいと感じた。
抽出生Ｃ：抽象画を描いてみて，見るのと描くのでは違うなと思いました。しかし，共通する点も見つかりました。それは「自由」です。自由に発想して解説したり，自由に描いてみたり，それがやはり抽象画の魅力だと思いました。
抽出生Ｄ：思ったこと感じたことを自由に想像できるので描きやすかった。他の人の作品は心の思いというのが平面上ににじみ出ていてすごいなあと思った。抽象画は心で描いていく絵だと感じた。

試しの活動の最初から好きな画材や色を手にとって描き始める子どもが多かった。１つ終わると次の課題を催促する子どももおり，活動を楽しむ姿が見られた。何も思いつかずに描けないという子どもはいなかった。

〈子どもが作り上げた作品〉

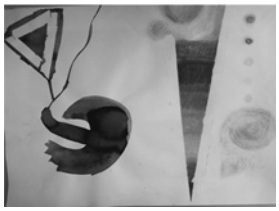
図１　抽出生Ａの作品
「微生物のパレード」

図２　抽出生Ｂの作品
「沈黙」

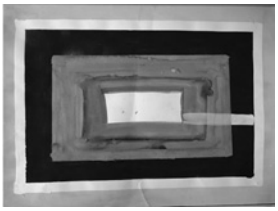
図３　抽出生Ｃの作品
「太陽の下」

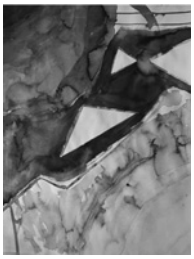
図４　抽出生Ｄの作品
「雨の日の気持ち」

これらの活動を経て，子どもたちはそれぞれの作品を作り上げた。そして題材の振り返りとして，抽象的な表現に挑戦してみた感想をまとめた。

抽出生Ａ：私は，抽象画以外の物や風景を描いた絵は見るのも描くのも好きではありません。しかし，抽象画は自由に頭で考えたことをそのまま表現できました。それがとても楽しかったです。ちょっとした偶然から完成が分からなくなるのも面白かったです。
抽出生Ｂ：私はあまり抽象的な表現が得意ではなかった。抽象画を見ても，特に何も考えなかった。しかし，抽象画を自分で描いてみたり，他の人の作品を鑑賞したりしたことで，抽象画について考えてみるのも面白いなと思った。具象画と比べてより自由だから，自分で描くのも楽しいし，他の人の意見を聞くのも面白かった。抽象画に対する見方が変わったと思う。
抽出生Ｃ：色々な作品を見て気が付いたことです。それは，人それぞれとらえ方が違うところです。私はそれが抽象画の魅力だと思いました。自由なとらえ方ができるところもいいです。
抽出生Ｄ：新たに学んだことは，人によって表現方法は自由だし，その人らしい世界に１つだけの作品が抽象画にはよく現れるということです。また具体的でなく，色と形だけで表現するので，見ている方も深く考えさせられたり違った角度から作品を見ることができ，楽しいということが分かりました。色と形という具体から得た感覚を自由に表現する喜びみたいなものが私自身に身についたと思います。

抽出した子どもの作品と記述内容からは，抽象的な表現に対する従来まで持っていた印象が変化していることが読み取れる。表現の幅を広げる子どもの姿を見とることができた。

⑵　**実践２**〈平成25年度　第３学年　３学級114名で実践〉

**【題材名】**今を生きるあなたへ―15歳の私の自画像―　光村図書出版２・３年下

**【題材の目標】**

○中学校３年生という現在の自分を見つめ直し，未来の自分に思いを馳せ，どのような自分の姿をテーマにして表すかを考え，それにふさわしい構図や画材の用い方を工夫して表すことができる。

**【意欲を引き出す手だての工夫】**

○中学校３年生の子どもが描いた自画像を提示し，同じ立場にある者として共感的に自画像をとらえられるようにする。中学校３年生という自分たちの立場を生徒作品に重ねて強く印象づけ，義務教育が終わろうとしている今だからこそ自画像を描くことに価値があると気付かせる。

○構図，背景，描画材，表情，目線，色彩など，自画像に表現されているものから気付くことを挙げさせ，なぜ作者がそのような描き方をしているのかに結びつけ，描かれている人物の内面的なものが見えてくるようにする。

○内観に向かうため，アンジェラ・アキの『手紙』をＢＧＭとして流し，雰囲気を高めて自分を見つめる場をつくる。

○自分を見つめるための技法としてイメージマップを描かせる。そこから描く自分のテーマが導き出されるようにする。

**【本時の展開】**

| 学習内容 | 学習課題と子どもの意識 | 教師の手だて |
|---|---|---|
| 自画像作品を見て感じ取る | ・この人はどんな人であるか考えてみよう。<br>目線，表情などから感じ取れることを挙げ，等身大の中学校３年生の姿を感じとる。 | ○生徒作品の自画像を提示し，性格，学校生活の様子など，描かれていることを手がかりに想像させる。 |
| 表現の工夫を感じ取る | ・自画像を深く見つめて感じ取ろう。<br>自画像に表れている人柄や性格，意思などの内面的なもの，想像される生活の様子などがどこから感じられるのかを構図，描画材，描き方の工夫と結びつけて考えていく。<br>作者が今の自分の姿をしっかりとらえ，それを効果的に表す工夫をしていることに気付く。<br>・今の自分の姿を自画像として表そう。中学校３年生という今の自分の姿をどのように表すかを考えよう。<br>鑑賞した作品から感じ取ったことを自分と重ねて考えてみる。 | ○作者が自分の姿にどんな思いを込めたのかを考えさせる。<br>○構図の工夫などから，中学校３年生の姿，思いに共感できるようにする。 |
| 自分自身と向き合う | ・イメージマップを書き，自分自身を見つめる。<br>今の自分をどのように表すか考える。『手紙』の詩と重ね合わせ，未来の自分に伝えたい今の自分を書き出していく。<br>・表したい自分はどんな描き方をするとよりよく表現できるだろうか。 | ○アンジェラ・アキの『手紙』を流し，自分の内面に向き合う環境を作る。<br>○イメージマップに書き出すことによって内面を引き出させる。<br>○自画像のイメージが広がるように，自由に意見交換させる。 |

| | | |
|---|---|---|
| | 互いのイメージマップを見合いながら，どんな自画像のイメージが描けるかを話し合う。<br>表したい感じを伝え合い，表したい自分に合う表現方法を考え，自画像の構図のイメージをもつ。 | ○イメージを広げるための視点を与える。<br>・表したい自分が出てこない生徒には互いのよいところなど，今の姿に対するアドバイスを送らせるようにする。 |

【導入授業の子どもの様相】

提示された自画像に対し，どんな人だろう，という問いかけに子どもたちはじっくりと見て考えていた。「どこかを見つめて力強く，意志をしっかりもっている人だ」「運動部で活発に頑張って来た人だ」など，描かれている人の表情や構図などからにじみ出てくる雰囲気を感じ取った意見が次々に出された。ここで自画像の題材の目標を提示し，イメージマップに取り組ませた。この授業で子どもが書いた振り返りの内容を自画像の表現に向かおうとする意欲の高まりによって分類し，全体に対する割合を下のようにまとめた。（〔 〕内は実人数，欠席者等を除く107人中）

①自分をとらえ，どのように描きたいか具体的なイメージをもっている記述（「自分の内面の特長を表現してみたい」「自分の性格が出るように表現してみたい」等）・・・・・40.2%〔43人〕

②自分自身を見つめることができている記述（「自分自身を振り返ることができた」「自分はこんな人間だと感じた」「自分が大事にしていたことが分かった」等）・・・・・23.4%〔25人〕

③どんな自分を表現したいかを漠然と考えた記述（「明るい自分を描きたい」等）・・・・17.8%〔19人〕

④どのような自画像を描くとよいか（自分自身にかかわらず）を見いだしている記述（「自画像は自分の内面を大事にして描くとよいと思った」等）・・・・・12.1%〔13人〕

⑤自画像を描くことに難しさを感じている記述・・・・・6.5%〔７人〕

この様相から，自画像を描くという課題に対して前向きに描き方を考えたり，自分自身を見つめて表現活動につなげていこうとしていた子どもは全体の９割に達したと分析する。中には『手紙』を聴きながらイメージマップを書く活動中に泣き出し，「思い出がたくさんよみがえってきた。卒業したくない。」と言った女子生徒もいた。しっかりと内観できたことで感情があふれ出した姿ととらえたい。①から④の記述内容には，以下のようなものがあった。

・自分と向き合うと楽しい，苦しい，悲しい思い出がたくさんよみがえりました。自分はいろんなことを経てここにいるんだと改めて感じました。雄大な自然の中にいて，未来への第一歩を踏み出す自分を描きたいなと思いました。（①の記述例）
・改めて自分とは何なのかを感じることができました。自分自身，中学校生活でかけがえのない時間を刻んできたので，一つ一つの思い出を整理しながら未来の自分への思いを考えていきたい。（②の記述例）
・今日は，ある人が描いた自画像を見ました。自分以外のもので自分らしさが出ていたし，自画像には自分の顔とか見えるところだけじゃなくて，自分にも相手にも見えないもの（内面）が描いてあると思いました。（④の記述例）
・自画像は，自分をうまく描くというのではなくて，自分を見つめて今の自分，内面を描くことが重要だと分かりました。自分から目をそらさずにしっかり見て，描きたいことをまとめて表現していきたいです。（④の記述例）
・将来が不安になってきた。そうならないために，今から頑張ろうと思った。今の自分をよくとらえて描いていけるといい。（②の記述例，抽出生Ｅ）
・今の自分と向き合うことができました。もっと今の自分について考えて，それを色々な方法で表せたなら，「中３の私」についてしっかり見つめられていると思いました。自分を見つめてしっかり表せるようにこれから工夫していきたいです。（③の記述例，抽出生Ｆ）

【表現活動に向かう子どもの様相】

ここまでの様相を基に変容を見とる生徒Ｅ，Ｆを抽出した。抽出生Ｅはイラストや漫画などは好んで描く子，Ｆは描写が苦手な子である。抽出生が書いたイメージマップと，イメージマップを基にアイディアスケッチをした後の感想を示す。

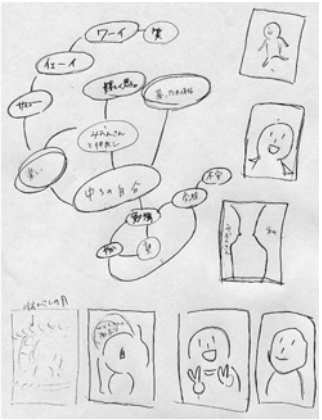

図５　抽出生Ｅのイメージマップ

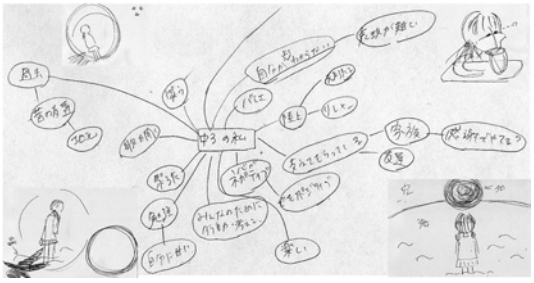

図６　抽出生Ｆのイメージマップ

抽出生Ｅ：自分だけじゃなくて，他にも何か好きなものとかも一緒に描きたい。今の自分の心情を表せるような構図になるように試行錯誤したい。
抽出生Ｆ：イメージマップから連想し，物や背景を考えていくとスケッチしやすかったです。今日美術をやる上で成長したと思うことは，とりあえず描いてみるという思いが生まれたことです。今まではイメージができていないという理由でスケッチブックに描き出すことができなかったけど，描くことによってどんどんイメージがふくらんでいったり，新しいアイディアが浮かぶことを実感しました。

中心に「中３の私」を置き，そこから自分を表すものを広げさせた。子どもは抽象的なイメージの言葉から，具体的なものや連想される色，感情，道具などとつなげていった。この後，イメージマップに現れたどの部分の自分を表すかを決めさせ，ラフスケッチにつなげさせたが，教師側で指示する前に自らイメージをスケッチし始める子どもが目立った。頭の中に自画像の具体が浮かんでいるからできる行動である。構図が見えてきた子どもから表現活動に取り組み始めた。抽出生Ｅはイメージマップから友だちとともに楽しく生活している今の自分をしっかりと描写し，楽しげな表情でのびのびとした構図で描いている。抽出生Ｆは悩みながらも未来に希望をもっているという自分がまとまり，それを構図の工夫によって気持ちが表れるようにしようとしていることが表現から感じられる。

図７　抽出生Ｅの表現

図８　抽出生Ｆの表現

図９
一人一人画用紙に向かってじっくり自画像を描く子どもの様子

## ４　成果と課題

### ⑴　成果

①導入時の鑑賞によって題材に引き込まれる子どもの姿が表出したこと

どちらの実践も，導入で具体的な表現の例として作品を提示，鑑賞した。それによって子どもたちの姿勢，目線が変わるのを実感した。これから取り組んでいく題材について，言葉で説明するよりも実際の表現を見ることでイメージが作られ，子どもの気持ちが高揚し，表現の面白さや対象の価値が感じ取られ，表現活動への意欲につながった。

②技巧にこだわる意識から内面を表現することへ意識を高められたこと

子どもの振り返りから読み取れたことは，どちらの題材も自分の内面にあるものや気持ち，感情をいかに表すかといったことに意識が向いていることである。これは，題材の導入部分で自分自身が感じたものや内にあるものを見つめる活動を取り入れたことによると考えられる。表現の巧拙に関わらず，自分事として引きつけて，自分はどのような表現がしたいかという思考を練る姿が見られた。

③導入で意欲が高められると，抵抗なく表現活動に取り組めること

導入段階で自分が感じたことを整理したり内観したりする場面を設定することで追究する対象の価値がとらえられ，表現の動機となるものが内面から生み出されたと考える。自分の中からわいてきた気持ちは，「やってみたい」という表現活動へつながるエネルギーになる。

### ⑵　課題

①限られた時間で深く感じ取らせること

作品鑑賞によって対象の価値をとらえ，自分の表現活動と結びつけてその方向性を見いださせるためには，深くその表現に共感し，自分と重ね合わさせる時間が必要である。限られた教科の時間内で，表現に感動し自分の内面を豊かにしていく時間を確保したい。また，短時間でも表現をじっくり観察させる有効な手だても考える価値がある。

②子どもの内面からわき起こった意欲を具体的な表現と結びつけること

子どもが「こんな表現をしてみたい」という意欲を見せたら，目指したい表現を実際に創り上げ，達成感を味わわせることが大切である。しかしそのためには，どのようにすると子どもが思ったような表現に近づけるのか，それにふさわしい表現方法を考えさせ，支援していく工夫が必要である。

〈参考・引用文献〉

１）『中学校学習指導要領　美術』『中学校学習指導要領解説　美術編』，文部科学省，2008年，p3
２）鹿毛雅治　『子どもの姿に学ぶ教師　学ぶ意欲と教育的瞬間』，教育出版，2007年，p16
３）『創造的な知性を培う』附属長岡中学校研究紀要　附属長岡中学校，2004－2009年